

1996年の気象概況

1996年の天気の特徴は、10年ぶりの寒い冬と4月の低温、北冷西暑の夏で、早い秋と冬の訪れであった。特に、本年の特色は次のようなことがあげられる。

本年のサクラの開花と満開の特徴をみると、九州でのサクラは3月下旬に開花し、4月上旬の低温で満開が遅れて花見の期間が長かった。また、サクラ前線の北上が遅く、満開も遅れて、1988年以來の8年ぶりのことであった。九州地域での4月の低温は佐賀、長崎、熊本で月平均気温12.1～12.6℃(平年差: -2.9～-2.6℃)の極値を更新した(第1表)。

梅雨についてみると、九州南部地方は平年より早く5月下旬の後半に、九州北部地方は平年並みに6月上旬の後半に梅雨に入り、南部は平年並みに、北部は平年より早くとも7月中旬の前半に梅雨が明けた。梅雨前線は6月上旬の後半頃から7月上旬前半にかけて九州付近に停滞することが多く、梅雨期間の総降水量は中部以南の地域では大分の104%～鹿児島133%で平年を上回ったが、その他は長崎の70%～佐賀の90%で平年を下回った。このため、九州南部地域では日照不足となり、早期水稻の出穂期と重なり収量に響く結果となった(第1図)。

本年の九州に接近・上陸した台風は第6号が7月18～19日かけて薩摩半島南部に上陸し、宮崎と熊本県境をゆっくりと北上縦断し、九州南部に大雨を降らした。この時の最大瞬間風速は鹿児島で52.0m/s、宮崎で36.3m/sであった。また、台風第12号が8月14日に熊本県に上陸し、九州北部から中国地方を縦断して日本海に抜けた。最大瞬間風速は鹿児島で58.5m/sであった(第2図)²⁾。

上記のような気象現象の中で、農業における気象被害は佐賀、福岡の一部地域で5月に雹が降り、さらに台風の影響で工芸作物、露地野菜、高冷地の水稻や果樹の落果等で被害がみられた。1年間の気象経過の概要は次の通りである(第1図)。

1. 久しぶりの寒い冬

1月上旬の前半は移動性高気圧に覆われたため、九州各県は穏やかな晴れの天気であったが、後半は西高東低の冬型の気圧配置が強まり、九州南部でも雪が降った。中旬の始めと終わりは高気圧に覆われたため晴れたが、その他は前線や気圧の谷の影響で天気がぐずついた。下旬の九州北部は気圧の谷や前線等の影響でぐずついた天気が多く、九州南部の前半はぐずついたが後半は高気圧に覆われ晴れの日が多かった。月平均気温は鹿児島でやや高かった他は平年並み、月降水量は福岡、長崎、大分でやや少なかった他は平年並み、月間日照時間は福岡、佐賀でかなり多く、長崎、熊本でやや多かった他は平年並みであった。

2月上旬は冬型の気圧配置が強まり上空に強い寒気が流れ込んだため、九州南部でも雪が降り積雪のあった所もあった。中旬は気圧の谷等の影響でぐずついた天気が多く、14日は南西の風が吹いたため各地で気温が上昇した。下旬は大陸の高気圧や移動性高気圧に覆われたため、各地とも晴れの日が多かった。月平均気温は佐賀と長崎でやや低かった他は平年並み、月降水量は福岡、佐賀でやや少なく、大分で平年並みであった他はかなり少なく、月間日照時間は福岡が平年並み、長崎と鹿児島でやや多かった他はかなり少なかった。

2. 記録を更新した4月の低温

3月上旬は大陸の高気圧や移動性高気圧に覆われたため、各地とも晴れの日が多かった。中旬は低気圧の影響で強い南よりの風が吹き大荒れの天気となった日があったが、南部で15日に「春一番」となり、各地でまとまった降水があった。また九州北部は17日に気温が上昇したため「春一番」となった。下旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨のぐずついた天気が多かった。また九州各地で桜が開花した。月平均気温は全域で平年並み、月降水量は佐賀でやや多かった他は平年並み、月間日照時間は福岡と長崎でかなり少なかった。

4月上旬は大陸性高気圧と移動性高気圧に覆われたため、寒気の流入や放射冷却の影響で気温の低い日が多かった。中旬の天気は周期的に変わり、14日は東シナ海で発生した低気圧が九州南岸を通過したため九州各地でまとまった雨が降った。下旬は帯状高気圧に覆われたため晴れの日が多かったが、30日に黄海の低気圧からのびる前線によって九州南部で100mmを越す大雨が降った。九州各地の平均気温は全域でかなり低く、月降水量は長崎でかなり少なく、九州北部地域でやや少ない他は平年並みで、月間日照時間は福岡と大分でやや多かった。

5月上旬の天気は短い周期で変化し、7～8日にかけて九州南部で80mm前後のまとまった雨が降った。中旬は移動性高気圧に覆われたため各地とも晴れの日が多かった。下旬の前半は高気圧に覆われたため晴れの日が多かったが、後半は梅雨前線の停滞により曇りや雨の日が多かった。月平均気温は長崎で平年並みであった他はやや高く、月降水量は佐賀、大分、鹿児島でやや少なかった他はかなり少なく、月間日照時間は佐賀でやや多かった他はかなり多かった。

3. 前半暑く後半涼しい夏

6月上旬の前半は高気圧に覆われて晴れた日もあったが、その他の日は梅雨前線の北上したため、曇りや雨の日が多くなり、まとまった雨が降った。中旬は梅雨前線が九州付近に停滞することが多く、曇りや雨の日が多く、

九州北部で150mmを超す大雨が降った所もあった。下旬も中旬と同様に曇りや雨の日が多かった。月平均気温は佐賀、長崎、熊本でやや高かった他はかなり高く、月降水量は佐賀と熊本でかなり多く、月間日照時間は福岡と長崎でかなり少なく、大分で平年並みであった。

7月上旬も先旬に引き続き梅雨前線の停滞により曇りや雨の日が多かった。中旬の前半は梅雨前線や台風の影響で曇りや雨の日があったが、後半は太平洋高気圧に覆われたため晴れの日が多くなり、18～19日にかけて台風6号が九州をゆっくり縦断したため南部を中心に大雨となった。下旬は太平洋高気圧に覆われたため、暑い晴れた日が続いたが、一時大気状態の不安定となりわか雨の降った日があった。月平均気温は鹿児島でやや高かった他は平年並み、月降水量は佐賀でかなり少なく、宮崎、鹿児島がやや多かった。月間日照時間は佐賀と熊本でやや多かった他は平年並みであった。

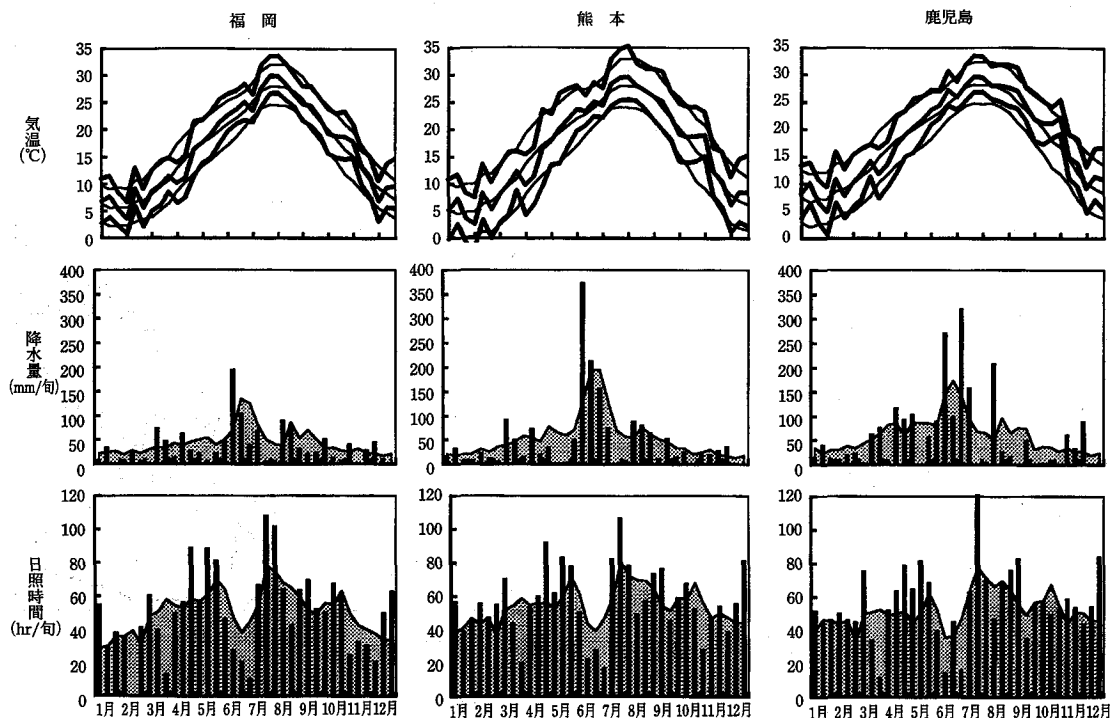
8月の下旬は太平洋高気圧に覆われたため、期間を通じて暑い晴れた日が続いたが、時々大気の状態によりわか雨の降った日があった。中旬は太平洋高気圧の勢力の弱まり、気圧の谷や台風の影響で曇りや雨の日が多く、14日に台風12号が九州を縦断した。下旬になっても太平洋高気圧の勢力は強まらず、曇りや雨の日が多かった。月平均気温は佐賀と大分で平年並みであった他はやや高く、月降水量は大分で少なく、福岡、佐賀、長崎でやや多かった。月間日照時間は福岡と大分が平年並

みであった他はやや少なかった。

4. 早い秋の訪れと秋晴れの多い天候

9月上旬は大陸の高気圧に覆われたため晴れの日が多かったが、その他の日は秋雨前線や低気圧の影響で曇天日となった。中旬は移動性高気圧や帯状高気圧に覆われたため、晴れた日が多かった。下旬の前半は移動性高気圧により晴れの日が多く、後半は秋雨前線や台風21号の間接的影響で九州南部で大雨となった。月平均気温は宮崎、鹿児島でやや高かった他は平年並み、月降水量は佐賀と鹿児島がかなり少なく、熊本と宮崎が平年並みであった他はやや少ない。月間日照時間は福岡でかなり多く、宮崎でやや少なく、大分が平年並みであった他はやや多かった。

10月上旬は短い周期で天気が変わり、九州北部の一部で雹が降り農作物に被害が発生した。中旬の前半は秋雨前線が九州南部に停滞したため、天気がぐずつき、後半は移動性高気圧に覆われ晴れの日が多かった。下旬の北部は移動性高気圧に覆われ暖かい晴れの日が多く、南部は高気圧が北に偏って通過するためぐずついた日が多かった。月平均気温は佐賀と大分が平年並みであった他はやや高く、月降水量は鹿児島でかなり少なく、佐賀、長崎、熊本でやや少なかった他は平年並み、月間日照時間は大分と鹿児島でやや少なかった他は平年並みであった。



第1図 1996年の福岡・熊本・鹿児島島の気象概況

注) 細線は平年値、太線と棒柱は1996年の値である。

11月上旬の九州北部は前線や低気圧の影響で曇天日が多く、南部では前半が移動性高気圧により晴れの日が多かったが、後半は前線や低気圧により曇天日が多くなった。中旬の初めと終わり頃は気圧の谷や前線の影響で雨の降った日があったが、その他は移動性高気圧により晴れの日が多かった。下旬の初め頃は移動性高気圧により晴れた日もあったが、その他は気圧の谷や強い冬型の気圧配置の影響で曇天日が多くなった。30日はこの冬一番の強い冬型の気圧配置になったため、北部であられや雪が降り積雪や初冠雪を観測した所があった。月平均気温は南部でかなり高く、北部でやや高く、月降水量は長崎でやや少なかった他は平年並み、月間日照時間は熊本と大分でやや少なく、宮崎と鹿児島が平年並みであった。

5. 寒い冬の訪れと周期的変化

12月上旬は強い冬型の気圧配置や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、雪やみぞれの降った日もあった。中旬の終わり頃から下旬の初めにかけては冬型の気圧配置となったが、その他は大陸の高気圧や移動性高気圧に覆

われたため、暖かい日が多かった。月平均気温は福岡、長崎、鹿児島でやや高かった他は平年並み、月降水量は佐賀でかなり多く、鹿児島でやや多かった他は平年並み、月間日照時間は福岡、長崎、宮崎でやや多かった他はかなり多かった。

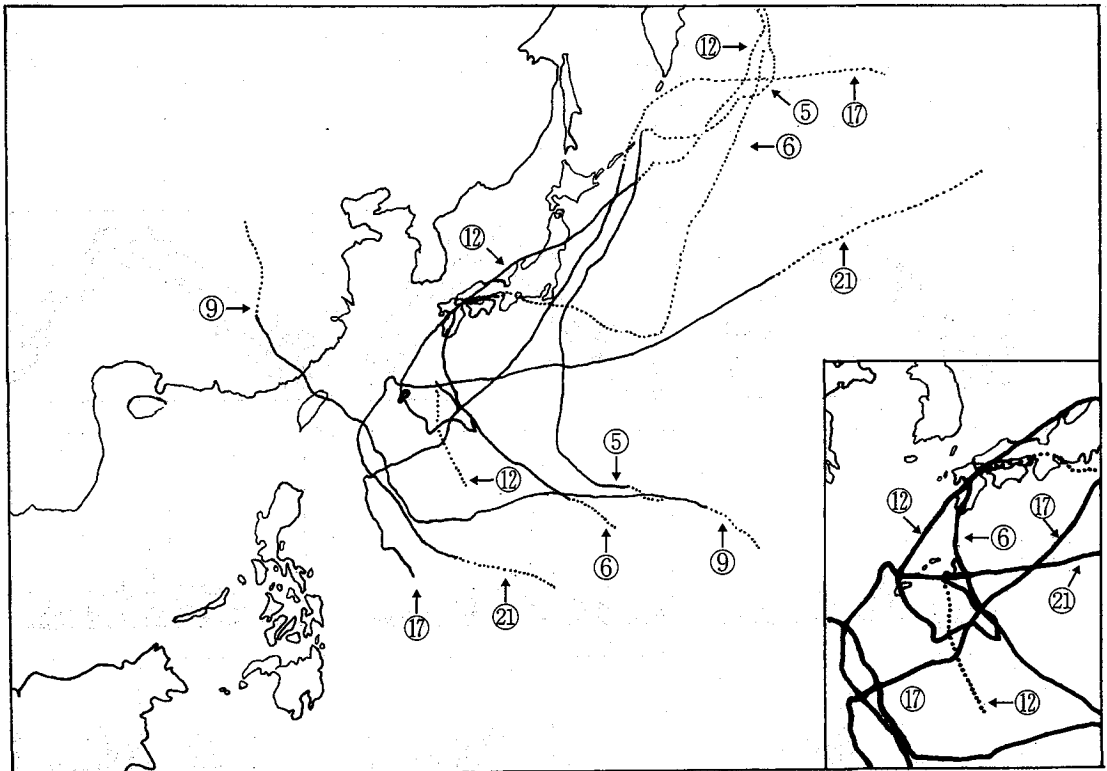
6. まとめ

1996年の九州の気象は久しぶりの冬と4月の低温や平年並みの台風上陸と早い秋と冬の訪れであった。水稻の作柄は作況指数が九州地域平均104で、やや良であった。また、社会・経済においても灯油が過去最大の販売量や寒波による春野菜の急騰、卵の高値、夏の水難事故の最小等の現象がみられた。なお、本年からサクラの開花予報が各地点の重回帰式法から全国统一のサクラの花芽成長モデルを用いた温度変換日数法に変更され、予測精度が向上したことがあげられる。

(九州農業試験場生産環境部)

参考文献

- 1) 平野貴嗣：気象，40 (6)，p.4-7，1996.
- 2) 岡田憲治：気象，41 (3)，p.16-19，1997.



第2図 1996年に日本に影響した台風の経路²⁾

注) 実線は台風の経路、波線は弱い熱帯低気圧または温帯低気圧の経路を示す。円で囲まれた数字は台風番号。
 なお、台風第12号については弱い熱帯低気圧の発生から8月13日までを拡大図に表示した。